

さくら ほっと NEWS



特集

▶ 地域がん診療連携拠点病院

- ▶ 強度変調放射線治療 (IMRT)
- ▶ サイコオンコロジー
(精神腫瘍学：がん医療におけるこころの医学)
- ▶ チーム医療

P. 2・3

お知らせ

- ▶ 病院機能評価の認定を取得しました！
- ▶ カードでのお支払いにも自動精算機がご利用いただけるようになりました！
- ▶ 平成20年4月より医療保険制度が変わりました！

P. 4

理念

当病院は、地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成します

基本方針

- ・ 大学病院として、高度先進医療を提供します
- ・ 高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します
- ・ 医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・ 名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します

名古屋市長立大学病院

vol.5
2008年5月

患者さんの権利等

患者さんの権利

- | | |
|---|---|
| <p>良質の医療を受ける権利
 情報を知る権利
 選択の自由の権利
 自己決定の権利
 機密保持を得る権利</p> | <p>患者さんは、人格や意思が尊重され、質の高い医療を平等かつ安全に受けることができます。
 患者さんは、ご自身の病気や治療について知ることができるとともに、十分でわかりやすい説明を受けることができます。
 患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身で選択し変更することができます。また、他の医師の意見を求めることもできます。
 患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身の意思に基づいて決定することができます。
 患者さんのプライバシーは十分に尊重されるとともに、個人情報厳正に保護されます。</p> |
|---|---|

患者さんへのお願い

- 病院の規則や治療上必要な指示・助言を守って療養してください。
- ご自身の健康状態について、できるだけ正確に伝えてください。
- 説明を受けても十分に理解できない場合は、納得できるまでお尋ねください。
- 他の患者さんの権利を尊重し、暴言・暴力等の医療の妨げとなるような行為は行わないでください。
- 大学病院として医療スタッフを育成するため教育実習を行っていますので、ご理解とご協力をお願いします。



地域がん診療連携拠点病院

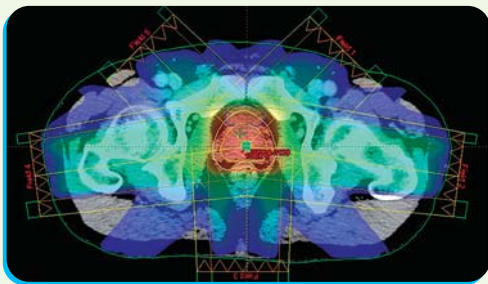
現在、日本の死亡原因の第1位である「がん」。この診療体制を整備し、がん死亡率を低下させる目的で、国が「地域がん診療連携拠点病院」を指定しています。

このたび、名古屋市立大学病院は、平成20年2月8日付けで厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。今回は、当院でおこなっているがん診療の一部についてご紹介します。

強度変調放射線治療 (IMRT)

日本におけるがんの治療は、従来は手術による病巣の切除を目指すことが目標とされ、放射線や抗癌剤などは補助的に行う治療と考えられがちでした。しかしながら放射線の癌細胞を死滅させる効果は強力であり、正常な部分にあたる放射線量を減らし、がんの病巣に照射する放射線量を増やすことができれば、切らずにがん細胞を殺し、しかも副作用の少ない治療ができることがわかっていました。近年、コンピュータの目覚ましい発達により、従来では不可能であった放射線照射野（放射線をあてる範囲）内の、放射線量を変える技術が開発されました。この技術は照射野内の放射線のあたる強さを変えることができるため、強度変調放射線治療（英語でIMRT）と呼ばれています。

たとえば前立腺癌の治療を放射線にて行う場合、すぐ後方に放射線に弱い直腸があり、従来の放射線治療では直腸にも前立腺と同じ量の放射線があたってしまうため、前立腺癌を治すのに十分な量を照射すると直腸に重篤な障害が生じ、逆に直腸に重篤な副作用が生



前立腺に高い線量を照射しているが（赤色）、直腸の線量は低い（青色）。

じない放射線量の照射に抑えると、がん細胞を死滅させる効果が弱くなり、がんを治す確率を高くすることができません

でした。ところがこの強度変調放射線治療の技術を用いると、前立腺に十分な放射線をあてると同時に直腸にあたる放射線の量を減らすことができます。実際の治療は、位置を正確に決めるために毎日超音波検査で前立腺の位置を確認したあと、多方向から放射線をあてます。1回の治療は約30分ですが、回数が35回程度必要となるため、約2ヶ月間の期間を要します。治療に麻酔などは必要なく、外来にて可能です。なお、この治療は従来先進医療として当院でも取り組んでまいりましたが、平成20年4月からは前立腺癌、脳腫瘍、頭頸部腫瘍に対しては保険適応となりました。当院では前立腺癌を中心にこの強度変調放射線治療を行っており、現在まで良好な治療成績をあげています。



当院の放射線治療装置

放射線科 荻野浩幸

サイコオンコロジー（精神腫瘍学：がん医療におけるこころの医学）

サイコオンコロジーは、がんの患者さんご家族を含めて、がんと心の関係を扱う学問領域のことをいいます。サイコオンコロジー（Psycho-Oncology）という言葉は、サイコロジー（Psychology：心理学）、サイカイアトリー（Psychiatry：精神医学）およびオンコロジー（Oncology：腫瘍学）などという用語から成り立つ造語で、日本語では「精神腫瘍学」と翻訳されます。サイコオンコロジーは1970年代の欧米で産声をあげた、まだとても若い学問です。

近年の医学の発展には、まさに眼を見張る勢いがある

ことは皆様もご存知のことと思います。がんの医療においても、がんの生物学的な側面のみならず、人の心理や行動、あるいは社会的側面も含めた広い視点から患者さんをとらえ、より良質な医療を提供する必要性が認識されるようになってきました。このような当たり前の心の領域を学問として扱い、ご家族が経験される心の痛みにも積極的に焦点を当てる、それが、サイコオンコロジーという学問といってよいかと思います。

名古屋市立大学病院こころの医療センターでは、サイコオンコロジーに積極的に力を入れており、がん



入院中の患者さんのために、専門のサイコオンコロジーチームを設けています（外来患者さんのための診療も行っておりますが、しっかりと診察時間をとるために『原則予約制』を実施し、事前に予約を取り、初診診療を受けていただくようにしております。その関係で、外来ではやや長い予約待ちとなってしまっていることをお詫び申し上げます。）。もし、眠れなかったり、気持ちのことでご相談したいとお感じになりましたら、一度、担当の先生や看護師さんに、こころ

の医療センターへの受診についてご相談してみられてはいかがでしょうか。もちろん、心の専門家にかかっても全てのストレスがなくなるわけではありませんが、私たちサイコオンコロジーチームのスタッフが、担当医、看護師をはじめとした医療チームの一員として参加させていただくことで、きっと患者さんの感じられているつらさを和らげることのお手伝いはさせていただけるのではないかと思います。

こころの医療センター 副センター長 明智龍男

チーム医療

当院では、さまざまな職種の専門性を活かしたチーム医療（多職種間の合議制医療）も盛んに行われています。

右写真：外来化学療法室におけるウィークリーカンファレンスの風景。
医師・薬剤師・看護師など多職種で行っています。



～外科医師の立場から（緩和ケアチーム）～

がん診療においては、がんの治療と同時に、がんによるつらい症状を緩和する必要があります。当院の緩和ケアチームは、主治医からの依頼を受けて、がんによる症状でお悩みの入院患者さんを診察しています。外科医は手術前後の身体症状を緩和する機会が多いので、その経験を生かし、患者さんの体のつらい症状を緩和するために私が緩和ケアチームに加わっています。心のつらさを緩和する医師や痛みの専門家である麻酔科医・看護師・薬剤師・事務職員など多職種で協力し、患者さんの症状が少しでも軽くなるよう努力を重ねています。（消化器外科 坂本雅樹）

～専門薬剤師の立場から～

薬剤師には「薬の専門家」として「薬」全般の幅広い知識が求められますが、医療の高度化・専門化に伴い、最近ではいくつかの分野で専門・認定薬剤師制度が発足しています。昨年私は「がん薬物療法認定薬剤師」を取得しました。抗がん剤治療が患者さん毎のお体の状態に合わせて正確に実施されるよう治療内容（レジメン）を電子カルテへ登録したり、副作用の兆候に気付いていただけるよう患者さんに抗がん剤治療の説明を行ったり、実際に出ている副作用を軽くできるよう医師に処方提案するなど、「がん薬物療法の専門家」として、医師・看護師などと連携し患者さんにとって安心・安全ながん薬物療法の実践に努めています。（薬剤部 黒田純子）

～看護師の立場から～

がんの患者さんの中には、治療を受けられる過程でそれまでのライフスタイルを変化させなければならない方もいらっしゃいます。

私は皮膚・排泄ケア認定看護師として、人工肛門を造設される患者さんを担当させていただいています。手術前から退院後の患者さんの生活を想定して、人工肛門をどこに造設すべきか等について主治医と意見交換をしています。病気や治療によってライフスタイルが変わってしまっても、患者さんに前向きな気持ちで療養生活を送っていただけるように、他の医療従事者とも検討を重ねています。（看護部 中尾敦子）

当院ではこの他にも、第3号でご紹介した「外来化学療法室」における化学療法や、第4号でご紹介した「抗がん剤を安全に使用するための取り組み」など、がん診療についてさまざまな取り組みを行っています。

また、病棟・中央診療棟1階にある「がん相談支援室」では、相談員（看護師）ががんに関する相談をお受けしています。

これからも当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、がん診療の質の向上にさらに努めてまいります。



病院機能評価の認定を取得しました！

当院は、平成20年2月18日付けで病院機能評価（Ver.5.0）の認定を受けました。

★病院機能評価ってなに？

（財）日本医療機能評価機構が設定した評価基準に基づき、同機構が中立的・客観的な立場で、医療機関の活動を实地調査や書面審査を通じて総合的に評価するものです。各評価項目が認定基準に達していると判断された場合“病院機能評価認定証”が発行されます。

なお、病院機能評価の認定有効期限は5年間で、5年後には更新の審査を受審することとなります。

★具体的に何が評価されたの？

患者さんの権利を尊重しているか、診療・看護が安全・確実に行われているか、施設・設備は患者さんの利便性に配慮されているか、病院の管理・運営体制は合理的かなど、約600項目について評価されました。

★認定を受けた結果、どう変わったの？

ご意見箱を設置するなど、より患者さんのニーズに合わせたサービスを実施することが出来るようになりました。

また、診療・看護について一定のレベルが確保されていることが確認され、患者さんに安全で良質な診療・看護を提供していることが証明されました。

当院は病院機能評価取得を契機として、さらに患者さんに信頼のある臨床技術「Competent Clinical Service」と、心の籠った暖かい医療「Heart Warming Care」を提供していきたいと思えます。



カードでのお支払いにも自動精算機がご利用いただけるようになりました！



今まで、カード（クレジットカード・デビットカード）によるお支払いは窓口のみの取り扱いでしたが、カード払いの方の利便性向上のため、カード専用の自動精算機を設置しました。ぜひ、ご利用ください。

◆ご利用いただけるお支払い

入院、外来に係る診療費、診断書等の諸証明に係る費用

◆ご利用いただける時間帯

平日 午前8時30分から午後5時まで

◆設置場所

外来診療棟1階アトリウム 外来会計向かい側

平成20年4月より医療保険制度が変わりました！

75歳以上の方（65歳から74歳で一定の障害がある方）は、老人保健制度から後期高齢者医療制度に移行し、新しい『後期高齢者医療保険者証』が1人ひとりに交付されます。

また、愛知県内にお住まいで一定の条件に該当する後期高齢者の方に、『後期高齢者福祉医療費受給者

証』が交付されます。

新しい保険証・医療証をお持ちの方は、各フロア外来受付または⑨番入院受付（時間外受付）窓口にて提示をお願いします。お手元に届いていない場合は、お住まいの市町村役場にお尋ねください。

名市大病院

検索

<http://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/>



このQRコードをケータイで読みとると簡単にホームページが見られます。

ホームページの検索方法の案内『名市大病院』で検索

クリック

名市大病院さくらほっとNEWSへのご意見・ご感想をお寄せください。E-mailは hotnews@med.nagoya-cu.ac.jp まで！